

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372300745		
法人名	有限会社ケイズライフ		
事業所名	グループホーム町屋ユニット①		
所在地	愛知県瀬戸市水無瀬町137		
自己評価作成日	平成27年8月5日	評価結果市町村受理日	平成27年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2372300745-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年8月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桜並木の美しい水無瀬川沿いにあり、天然木をふんだんに使った木造の建物で温かくアットホームな雰囲気作りをしている。「ゆったり、にっこり1日を」を理念とし、普通の生活を送って頂けるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはユニット(1号館、2号館)で開設された時期が異なるため、建物の構造と雰囲気が異なっている。2号館には、利用者のプライバシーに配慮した居室の配置や利用者も調理に参加できるようにミニキッチンを備え付ける等、1号館での経験を活かした工夫が行われている。職員による利用者への働きかけや接し方、日常生活における基本的な支援方針は共通しており、毎月のホーム便りには利用者一人ひとりに宛てた手紙を作成したり、介護計画書の見直しの際には、職員全員で利用者の気付きを専用の用紙に書き出してもらい取り組みを行っている。職員の取り組みを通じて、利用者一人ひとりの思いや意向を引き出しながら、その人らしい生活が実現できるように、職員の意識向上につなげている。また、医療面でも協力医による柔軟な支援が行われており、重度の方の生活も可能である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	月に1度の会議、2カ月に1回の勉強会等で理念を共有している。	ホームでつくった理念が関連ホームとの共通の基本理念となっており、職員は日常の支援や介護計画の見直し時等、様々な場面で理念の内容の振り返りにつなげている。また、理念をホーム内に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	月毎にボランティアや行事を行い、日常的に近隣の散歩を通して地域の方々と声をかけあっている。	開設以来、ホームの長年の取り組みもあり、地域の方との関係を築くように取り組んでおり、日常的にも近隣の方との挨拶等に努めている。また、ホームでは様々なボランティアの方の受け入れを行っており、利用者との交流につなげている。	地域の方との交流については、現状、限定的な関わりとなっている。地域の方との交流の機会が増えるような行事等の開催や働きかけに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	なかなか機会を作る事が難しいが交流の場を通してアピールできる機会を作ろうとしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度運営推進会議を行い、報告や話し合いを行い、意見をサービスの向上に活かしている。	会議には、市の担当職員や地域包括支援センター職員の出席が得られている事もあり、ホームの運営状況を知ってもらう機会にもつながっている。出された意見等から、ホームの改善等につなげている。	現状、会議の出席者が限定されている。地域の方や家族の出席が増えるように、ホームからの継続した出席への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者と直接相談や助言を受け良好な関係が作れている。	当ホーム管理者は、関連ホームの統括業務も行っている事もあり、関連ホームも合わせた不明点等の解決につなげている。また、市内の事業所の連絡会への出席や介護相談員の受け入れも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間は施錠しているが、他の身体拘束は行っていない。勉強会でテーマとして取り上げてケアに努めている。	身体拘束を行わない方針のもと、両ユニットが道路に隔てられているが、玄関の施錠を行わずに職員による利用者の見守りが行われている。また、関連事業所との研修会の機会をつくり、振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止は徹底されて防止に努めている。身体拘束と同様に勉強会で取り上げてケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会や活用する機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	アンケート調査や来訪時に要望などを聞き、反映できる所は行っている。	ホームの花見等の行事の際には家族に参加を呼び掛けて交流につなげている他、運営法人で独自のアンケートを実施しており、意見等の把握につなげている。また、利用者毎の便りの作成も行っており、ホームでの様子を細かく伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議やその都度意見を聞いたり、個人面談を行い、反映できる所は反映している。	ユニット毎で職員会議を行っており、関連ホームと合わせた統括者でもある管理者は、職員との意見交換や要望等の把握と反映につなげている。また、管理者による職員の個別の面談の機会もつくられ、職員一人ひとりの把握に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々に能力を見極め、仕事の状況や努力を把握し、それに基づいた給与や労働時間にできるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	2か月に一度法人内の勉強会を行い、社内研修や外部での研修を行い、研修後の報告も行い機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	年に数回同業者と交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	コミュニケーションを図り、要望などを聞き、家族にも伝え、できる限り対応し、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が困っている事や不安な事を事前に聞き、説明し、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在必要としているサービスを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人と同じ目線で、今までの生活歴も把握し、一緒に家事を行ったり、家族のような関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とも密に連絡を取り合い、協力を得て、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまで本人が住んでいた地域へドライブしたりとできるだけ支援に努めている。	利用者の馴染みの方との関係が継続できるように、利用者がその方々との交流につながるような外出支援にも取り組んでいる。また、家族との食事や買い物等を楽しんだり、家族と自宅で過ごす機会もつづられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士相性等も考え、食事席等決めており、利用者同士の関係作りに努めている。耳の遠い方、理解が難しい方等に対し積極的に話しかけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談や要望があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の表情や言動、定期的に聴きとりを行い、家族等にも意見を頂き、本人様の意向に沿えるよう努めている。	介護計画の見直しの際に職員が利用者に関する気付き等を専用の用紙に細かく記載する取り組みを行っている。計画作成担当者は、その過程で職員から出された意見も参考にしながら、利用者に関する意向等の把握と反映につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	最初の実調や家族との話し合いで把握に努めている。普段からも昔の話を聞いたり、家族にも話を伺い生活に取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々に情報をまとめ、記録をとり、毎日身体状況を確認し、一人ひとりにあった生活が送れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にモニタリングを行い、家族や職員全員で意見を出し合い計画を作成している。	利用者の状態等に合わせた介護計画の見直しを行っており、見直しの際には専用の用紙も活用して職員全員で検討するよう取り組んでいる。また、日常的にも介護計画に関するチェックを行っており、定期的なモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々あったことを記録し、職員同士情報を共有し、計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時その時で生まれるニーズを検討し、常に臨機応変に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	外出やボランティア等を利用し、暮らしに活気が出るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回主治医の往診がある。主治医や看護師と連携を図り、本人や家族の意見を尊重し、適切な医療が受けられるよう支援している。ほぼ毎日主治医に来て頂いているので、その都度相談し適な医療が受けられている。	協力医による利用者毎の訪問診療が行われており、利用者の体調変化に合わせた受診も可能であり、医療面での柔軟な対応が可能である。また、利用者の状況等にも合わせた受診支援や情報提供が行われている他、看護師による支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常時看護師に連絡・報告を行って適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を提供し、退院時にはケースワーカーや看護師等と連携を図り、スムーズに元の生活に戻れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師の指導・指示のもと早い段階から本人・家族との話し合いを持ち取り組んでいる。	ホームでは、利用者の看取りに関する支援にも前向きな取り組みが行われており、家族との話し合いや協力医による柔軟な支援を受けながら、ホームでの看取り支援が行われている。また、関連ホームとの勉強会の機会もつくられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時の基本マニュアルがあり、職員が理解をし、手順に沿った対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回は夜間・日中を想定し避難訓練を行っている。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われている。ホームの2階に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。なお、地域の方との協力関係については継続したテーマでもある。	現状、隣接する関連有料老人ホームとは別の訓練となっているが、連携が深まることを期待したい。また、地域の方との協力関係についても継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日々心掛けて対応している。プライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	職員には利用者本位の支援を行うように、関連ホームとの研修会等、職員の対応に関する振り返り等の機会をつくるように取り組んでいる。また、日常的には、管理者やユニットリーダーによる注意喚起等が行われ、職員の意識向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定ができない方も選択ができる声かけを行い、引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できる範囲は一人ひとりのペースに合わせて支援しているが、多人数介護ではできない部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援している認知症の方でも本人に選択できる支援やひげそりのお手伝い、髪の毛をとく等清潔にサッパリ支援できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	米とぎ、野菜を切る、皮を剥く、洗う、片づけ等本人の能力に合った支援をし、一緒にやっている。	職員は、食材業者のメニューを基本にしなが、利用者の好みや嗜好等によるアレンジも行われている。食材の一部は買い物で行われており、利用者も一緒に出掛けている。また、季節等に合わせた食事作りや日常的にもおやつ作りが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスは食材業者が考えている。個々の摂取量の把握、目標を設定し、毎回記録し、個々に合った量や塩分等の調整を行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っている。自分でできない方はケアしている。自分でできる方は自分でやっている。義歯の消毒も毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の記録や水分量の把握をし、排泄チェック表を使い、こまめな声かけや誘導を行い、トイレでの排泄が行えるように支援している。	利用者の身体状態等に合わせた排泄チェックが行われており、職員間で情報を共有しながら、「生涯トイレ」で排泄できるような支援に取り組んでいる。また、協力医や看護師とも排泄状態に合わせた医療面での連携にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や運動の取り組み、腹部のマッサージや排泄時の態勢等、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日で分けているが、その日の本人の体調や希望に応じている。	浴槽はゆったりとしており、ユニットにより木の浴槽も設置され、利用者の寛ぎの空間となっている。1日のおきの入浴となっているが、利用者の希望等により入浴回数や時間にも対応している。また、重度の方には職員複数での対応も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	空調の管理をしっかり行い、傾眠や体調不良時は部屋で休めるよう支援している。汚れたシーツは即座に交換し、布団やシーツも週に1度は干している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報を個人で管理し、変更時等はしっかり申し送り、医療従事者からの指示も連絡ノート等に記入し申し送りしている。わからない事は薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の趣味や生活情報から、家事の分担などレクリエーション、外出機会を作り、気分転換等の支援に出来る限り努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	外食やドライブ、散歩、他施設との交流機会を設け本人の希望に合わせて出来る限り家族等とも協力しながら外出できるように努めている。	ホームでは、日常的に外に出る機会をつくりながら、ホーム周辺の散歩や買い物等での外出が行われている。また、年間計画に合わせた外出行事が行われている他、関連ホームと連携した外出行事も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者は所持していないが、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個人の携帯電話を持っている方もみえ、直接電話でやり取りできる方もいる。希望があれば電話で家族と連絡がとれる状態であり、職員も間に入り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日掃除、消毒をし、臭い等に気を付け、居心地の良い清潔な状態を維持し、季節毎のカレンダーを作成したり花を飾りつけしたり居心地良く過ごせるよう工夫している。	ホームは、ユニットでリビングの雰囲気は異なっているが、両ユニットとも採光に優れて天井が高く設計されており、ゆったりとした空間が確保されている。また、ユニットにより季節に合わせた飾り付けが行われており、季節感にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのソファや食堂のテーブルや玄関の椅子等を使い利用者同士で話す空間や独りになれる空間を使い過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたタンスや仏壇などなじみの物を持ちこんでいる。また、危険のないよう配置にも配慮し、家族にも相談し過ごしている。	居室内は両ユニットとも和風の雰囲気となっている。自宅から持ち込んだタンスや鏡台等が居室の雰囲気に合っており、利用者の入居前の環境に近い空間となっている。また、家族の写真や趣味の物を持ちこんでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人1人のADLやIADLを観察し、できることやわかる事を理解し、安全に配慮し声かけや見守りを行いながら過ごして頂けるよう心掛けている。		